



シリーズ！ 我が国からの議長・副議長に聞く その2

やまもと ひで き
山本 秀樹 ITU-T SG16副議長 (WTSA-16 選出 (新任))

専門領域：IPTVの開発、標準化

略 歴：

1984年 京都大学電気工学科 卒業

1984年 沖電気工業(株) 入社

1995年 東京大学 博士号 (工学) 取得

● 2002年 アジア・太平洋電気通信標準化機関 (ASTAP) ラポータ

● 2007年 ITU-T FG-IPTV参加、IPTV技術標準に携わる

● 2013年 ITU-T SG16 APT リエゾンオフィサー

● 2016年 ITU-T SG16副議長就任 (現在に至る)



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

山本 大変光栄に思います。SG16はマルチメディア通信を担当しているグループで、これまでも、三菱電機の内藤さん (前SG16議長) が、ワーキングパーティの議長、副議長、議長と20年以上の間、この分野をリードされてきました。内藤さんには到底及びませんが、この分野の発展に貢献できればと考えています。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

山本 現在IPTV関係の仕事をしています。その関係で、2007年にITU-Tのフォーカスグループ・IPTV (FGIPTV) に参加したのが最初でした。FG終了後、提案した内容に関係する勧告作成作業がSG16で開始され、SG16の会合に参加するようになりました。最初は他の方がエディタをされている文書に寄与文書を出すだけでしたが、提案している内容を別途勧告化すべきというラポータの勧めがあり、エディタとして勧告の編集作業等も行うようになりました。

—— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

山本 高品質映像マルチメディアを中心としたマルチメディアサービスです。SG16の規格で最も多くの人に関係しているのは、画像圧縮の規格H.264、H.265だと思います。これらを使った業務用TV会議や、娯楽用のIPTVなどの映像サービスは世の中にいきわたっています。次研究会期の間、東京オリンピック・パラリンピックに向けて普及が

予想される4K/8KのIPTVやパブリックビューイング、超臨場感ライブ体験にかかわる課題を検討していきます。さらに、高齢化社会に向けて重要な健康サービス、自動車関係、翻訳関係、アクセシビリティ、電子政府といったマルチメディアにかかわる、人が直接触れる様々なサービスの課題を検討していきます。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

山本 いま述べたような課題を検討するにあたり、サービスの内側の世界では、クラウド化、仮想化、5G、モバイル端末の普及、セキュリティの脅威の増大、AIの浸透、IoT、街全体のスマート化の普及など新しい技術の動きが始まっています。これらの課題を検討している他の機関との連携をとり、安心して使える感動のあるサービスを提供できるような活動を行っていきたくと考えています。特に次会期の中に、アジアを初め、アフリカ、アラブ、ロシアの通信環境はますます先進国に近づくことが予想されるので、それらの地域でも導入できるサービスのための検討が重要だと考えます。

—— 副議長としての難しさや壁 (障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

山本 技術情報や、サービス提供者・NW事業者・エンドユーザーなどの様々方のニーズなどの情報を活用して成果を出していくには、様々な方とのF2Fの議論の場が重要だと思います。そういう場をできるだけ多く提供できるように、議長や、様々な地域から来られている副議長の方と相談して進めていきたいと考えています。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの



理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

山本 これまで活動する中で、政府関係の方やICT産業界からの厚いご理解やご協力によって、ITUの活動が成り立っていることがよくわかりました。SG16が、今後の社会および産業界からのメンバーの事業に役に立つ勧告を生み出し広めていくために、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

山本 プライベートな時間は、家の周りで育てている植物や、メダカやエビのいるビオトープの世話で時間を使っています。スペースが無いので、鉢植えばかりですが、種か

ら育てた鉢植えで、何とか果物を収穫しようと、堆肥づくりや日当たりを求めての植木鉢の移動など、いろいろ取り組んでいます。今年はオリーブが少しだけとれました。メダカやエビは睡蓮鉢の中でもう5、6年、世代交代して生きながらえています。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

山本 ITUは国際機関ですが、せっかく日本からの副議長として選出いただきましたので、わが国、地域、産業界の皆様の課題解決に役に立つSG16になるよう率先して活動していきたいと思います。何かございましたらお気軽にご相談ください。どうかよろしく申し上げます。



【読者のための豆知識】

SG16（第16研究委員会）の活動内容：
マルチメディア符号化、システム及びアプリケーション



みやけ ゆたか
三宅 優

ITU-T SG17副議長 (WTSA-16選出 (新任))

専門領域：高速通信プロトコル、ネットワークセキュリティ、情報セキュリティ (認証、プライバシー保護等)	2005年	ITU-T SG17参加 P2Pセキュリティ技術標準化
略歴：	2009年	電気通信大学大学院情報システム学研究科 博士課程 修了
1988年 慶應義塾大学理工学部電子工学科卒業	2009年	ITU-T SG17 Q6アソシエイトライター 就任
1990年 同大学大学院理工学研究科電気工学修士課程 修了	2016年	(株)KDDI総合研究所 セキュリティ開発グループ
1990年 国際電信電話(株)(現KDDI(株))入社 KDD研究所 (現KDDI総合研究所)	2016年	ITU-T SG17副議長就任 (現在に至る)



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

三宅 新任の副議長とのことで緊張しています。ITU-Tの活動に少しでも貢献できればと考えています。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

三宅 主にセキュリティに関連する研究活動に従事しています。ITU-T SG17には2005年から参加し、ユビキタス・セキュリティ関連のアソシエイトライターを担当していました。セキュリティ分野では、GSMA、oneM2Mの活動に参加しています。

—— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

三宅 次々と新しい技術・サービスが導入されるICT業界において、これらに対応したセキュリティ対策を先回りして検討することが重要になってきています。他の標準化機関等とも連携しながら、新たなサイバー攻撃に迅速に対応できる取組み、勧告作成が必要かと考えています。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

三宅 SG17は新任の副議長が多く、私もその一人ですが、これまでのSG17参加の経験を生かして活動活性化に貢献したいと考えています。セキュリティは他のSGや外部の機関との連携も重要ですので、連携を通じて有益な勧告作りを進めます。

—— 副議長としての難しさや壁 (障壁)、そうしたことへの対処方法はどうかお考えですか？

三宅 セキュリティ対策では、プライバシーの観点から国や地域でポリシーが違うことがあり、方針について合意が

得られにくいことも多々あります。ITU-Tで決めること、各国・地域で対応すべきことを整理し、取組みを前に進めることが重要かと考えています。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

三宅 サイバー攻撃やスパム行為により経済的な被害や信頼の失墜が発生している状況であり、有効な対策が求められています。各国政府の協力によりITU-Tの立場を生かしたセキュリティ対策が実現できると考えています。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

三宅 セキュリティ対策で困るのは、どこまで対策すれば良いのか。対策を強化すると、費用が掛かり利便性が低下します。全てを勘案して最適なポイントを見つけることが重要です。これって、何にでも当てはまると思います。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

三宅 SG17では多くの分野のセキュリティ対策について検討しています。皆様のご要望やご協力が必要ですので、SG17の活動に興味を持っていただければと考えています。よろしくお願ひします。



【読者のための豆知識】

SG17 (第17研究委員会) の活動内容：セキュリティ

はしたに たかふみ
端谷 隆文 ITU-T SG20副議長 (WTSA-16選出 (新任))

専門領域：ICTと気候変動およびスマートシティ関連の標準化	● 2008年	ITU-T FG-ICT&CCに参加し、ICTと気候変動標準に携わる
略歴：	● 2008年	富士通(株)に異動
1986年 金沢大学大学院・教育学研究科 理科教育専攻 修了	● 2009年	ITU-T SG5参加 Q18アソシエイト レポート就任
1986年 (株)富士通研究所 入社	● 2015年	ITU-T SG20暫定副議長就任
	● 2016年	ITU-T SG20副議長就任 (現在に至る)



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

端谷 ありがとうございます。SG20は、前会期中の2016年5月のTSAGで設立したSGで暫定扱いだったものが、今回のWTSAで正式承認されました。IoTとスマートシティを扱う関係上、大変関心の高いSG（副議長がSG中最多の13人選出）で、副議長に任命されたことは大変名誉なことだと思っております。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

端谷 ITUとの関わりですが、2008年にFocus Group on ICTs and Climate Change (ICTと気候変動に関するフォーカスグループ) が設置されDirect and indirect impact on energy of ITU-T standardsの執筆が始まりました。

このFGの成果を受けて2009年にSG5/WP3 (ICTと気候変動) が設立され、2016年までの2会期にわたりQ18で活動してきました。SG5の前会期中、2013年～2015年にFG-SSC : Focus Group on Smart sustainable cities (スマートサステナブルシティに関するフォーカスグループ) が設立され、社内外で関心の高い分野でしたので全てのFGに参加いたしました。このFGからのSSC関連の継続審議の場が必要、TSAGからのIoT関連の集中議論できる場が必要との提言で、2015年6月のTSAGでIoTとSmart citiesを扱うSG20が発足、日本から暫定副議長として私が任命され、今回、正式に任命されました。

—— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

端谷 私の関心事はSSCだったのですが、SSCを構築する上でIoTが非常に重要な役割を果たすと思います。IoTに関しては、全世界で非常に関心が高く、産業的にも重要なキーコンテンツです。IoT利用が都市のスマートさにかかにインパクトを与えるかを評価するための効率的なサービ

スを解析したり、ベストプラクティスを収集することなどが重要なテーマだと考えております。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

端谷 中立的な立場でSGをけん引していくことは副議長の役割と認識しておりますが、ICT企業からの派遣でもあり、SGでの成果がICT業界全体の活性化、自社の活動にリンクするように活動していければと思います。

—— 副議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

端谷 新任とはいえ、すでに半年以上、暫定副議長としてSG20のマネジメントチームに所属しておりました。本チームは、中東各国の方々の関心が大変高く、弁の立つ方々が多く、その方々が中心に議論が進むという傾向があります。米国からの厳しい指摘ともいえる寄書対応への懸念を表明しても簡単に受け流され、SG本会議では予想通り大変な対応をせざるを得ないこともありました。対処方法は、粘り強いコミュニケーションに尽きるかと思っております。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

端谷 総務省、経済産業省が中心となり2015年10月にIoT推進コンソーシアムが発足され、2016年10月第2回総会では、当初の700社から2400社程度にまで会員数が大幅に増えております。

国内だけでなく、世界においてもIoTへの関心は非常に大きいものを感じています。

反面、ITU-Tの活動では日本からの参加者が少なく、中東をはじめ新興国に勢いがあります。標準化することでICT産



■写真. SG20議長とのツーショット



業界の活性化や利用を希望している新興国や発展途上国への進出が容易になることは自明です。ICT産業界では、さまざまなコンソーシアムやSDOに関心を寄せ参加していることは承知していますが、世界のICT標準を勧告化するITU-Tへの取組みにも積極的な参加を期待しています。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

端谷 富士通に入社1年後（1987年）、宇宙飛行士が、地上で無重力訓練に使うNASAの特別な飛行機で実験する貴重な体験をいたしました。自身初の海外渡航、輸送品の中には、最新機材や試薬類などがあり、輸出規制をクリアするのに一苦労、また保険をかけようにもどれだけ危険（45度の角度で急上昇・下降を繰り返す飛行機ですので）か、保険会社も算定できないなど、出張前から未知への挑戦の連続でした。一人で渡航するも、着いた先はヒューストン郊外、日没が迫る中、予約したアパート（近くにホテルがなかった）の管理事務所にはすでに誰もおらず施錠されていました。携帯電話もない時代、今にして思えば笑い話のネタですが、さまざまなアクシデントをクリアし、無事に微小重力実験を遂行（添付：当時の8mmビデオから数コマを抜粋）できた経験が、「何事も、挑戦しないと始まらない」という私の信条を形成したのではないかと思います。



機材の点検も、体を浮かせて、このとおり



■写真2. 微小重力実験の様子（NASA、1987年）

—— 微小重力ではご気分はどうでしたか？

端谷 搭乗前に強い酔い止め薬を渡されました。飲むと、微小重力になる前からふわふわとした気分になりました（笑）。機内が微小重力になった瞬間、視線の方向すべてが下に見え、急に空間が広がったような感覚になりました。映画アポロ13号で主演したトムハンクスもこの飛行機で撮

影したそうです。宇宙飛行士がよく水玉で遊ぶ様子を実演しますが、そういうこともできましたね。微小重力環境での実験様子は、8mmビデオからコンバートして携帯で持っています。興味のある方は、ぜひお声をおかけください。

2016年3月からドイツに赴任しており、自宅付近を散策、写真（夕暮れ時の丘の向こうに見える風車）を撮ったり、観光目的で運行している蒸気機関車（AugsburgからSalzburgへ）にも乗りました。今後、ドイツ国内はもとより欧州の素晴らしい風景の地を訪ねてみたいです。



—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

端谷 スマホは、身近なIoT機器ですが、インターネットにつながった先には、無数のIoTデバイスが様々な情報を収集し、IoTサービスがビッグデータからデータマイニングや解析をして私たちに意味ある情報を届けてくれます。と、同時にいつでも情報発信源にもなれます。スマートな社会を作るには、その活用次第であり、標準化が手助けをしてくれると思います。ITU-Tでそのような活動にかかわりませんか？

【読者のための豆知識】

SG20（第20研究委員会）の活動内容：
IoTとスマートシティ・コミュニティ